

疫学研究・臨床研究に関する情報の公開について

研究課題名

去勢抵抗性前立腺癌に対する治療成績に関する研究

研究計画

(1) 背景・意義

去勢抵抗性前立腺癌とは、ホルモン療法により男性ホルモンの分泌が去勢術を行ったのと同じレベルに抑えられているにもかかわらず悪化する前立腺癌のことで、患者さんの平均余命は16カ月と非常に経過が不良な病気です。この去勢抵抗性前立腺癌の患者さんの寿命を延長する見込みのある治療方法として、2008年にドセタキセル、2014年にエンザルタミド、アビラテロン、カバジタキセルといった薬が相次いで使用できるようになったため、現在では治療の選択肢が飛躍的に広がっていますが、それらの薬の適応基準や症例の選択などは世界的にもいまだに定まっていないのが現状です。

このような臨床的な問題点を解決するために、当院を含め、東京大学医学部附属病院を中心とした複数の施設から症例を集めて、去勢抵抗性前立腺癌に対して治療を行った症例の臨床経過を詳細に調査し、治療成績、生命予後、治療に伴う有害事象などを調べます。

(2) 目的

去勢抵抗性前立腺癌に対して治療を行った症例の治療成績、生命予後、治療に伴う有害事象などの臨床経過を明らかにします。

(3) 方法

2007年4月以降に治療を受けた去勢抵抗性前立腺癌の患者さんの診療録(カルテ情報)ならびに画像情報、血液データ、病理データを調査します。得られた情報は匿名化した上で、東京大学医学部附属病院泌尿器科に集められ、解析を行います。

個人情報の取り扱い

本研究の目的を達成するために必要な範囲を超えて診療録からの個人情報を取り扱いません。また、得られた情報は個人が特定されないように匿名化した上で、細心の注意を払い安全に管理します。なお、本研究により得られる研究結果は個人が特定されることはない形でまとめます。

連絡先

泌尿器科 部長 松島 常 TEL:03-5343-5611